

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雑詠」

すすき原海の匂いの地平線

片岡 包女

(評)果しなくと表現できる程に広いすすき原、その向うには更に果しなき海が続く、大地との間に遮るものは何もない。

広々と眼前に広がる大地には、海からの潮の匂いがストレートに伝わる。地平線とあるところから、大地と海との距離感が気がにかかる句ではある。

釣糸のキラリ一筋秋の空

津田 久美

(評)釣り糸が秋の太陽にキラリと光って見えた。空も澄み、水も澄んでいるから、小さな釣糸でも太陽の光をキラリと返すのである。ああここにも矢張り秋が来ていると、胸をふくらませるのは、何もこの作者ばかりではあるまい。

妻逝きてはや一年ぞ曼珠沙華

森岡 照月

(評)曼珠沙華は彼岸花、死人花と呼ばれる。その毒性に結びつけて手腐れ花と呼ばれることもあるが、この句は嫌われた花とせず、美しい花としてその美を讃えている。妻が逝きてはや一年、おまえは今どこに咲いているのか…あのときから私は一人暮し、どんなに美しく咲いても所詮は彼岸花。最愛の妻はもう居ない。

歓声の紅白マスト秋惜む

弘瀬うき子

(評)村の小学校秋の運動会「マスト登り」は競技プログラムの中でも主要種目の一つ、現今の親は勿論、それ以前からも、メイン競技種目の一つとして台頭していた。この競技が終ると運動会も終了する。そして季節は一直線に冬に入る。

稲の秋終り一村軽くなる

刈谷 志津

まず鎌をねぎらい洗ふ秋夕焼け

間 浩太

霧ごもる棚田のいくつ稲架襖

友草 水月

秋風や童話の中に子は眠る

大川 節弥

娘ら一家来て栗飯の炊き上る

竹崎 光子

陶板の名画巡りて湖の秋

井上 郁子

秋耕の夫婦にせまる山の影

岡本とも子

黄昏の秋風渡る丸木橋

川村 博子

落日や鶏頭燃ゆる里の庭

筒井 正子

秋風の高さへ途中外の旅

竹崎たかひろ

お多福もひよっとこもいてぎくろの実

伊藤 萩甫

バス停の一区を歩く星月夜

岡村 嘉夫

名門の空家となる日むくげ咲く

野本 則昌

白萩の風に錆いし駅舎跡

門田 京子

稲刈るや野猿と猪と朝の雲

松尾満津於

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

婚活サポーターに相談してみませんか？

婚活サポーターとは県が主催する養成講座を受講した方々で、結婚を望む独身者をボランティアで応援するお世話焼きさんです。独身者からの相談を受け、県内の婚活サポーターのネットワークを活かして相手探しのお手伝いをしてくれます。この制度の詳しい内容や婚活サポーターへの相談方法については、各市町村役場の窓口にありますパンフ

レット、又は県庁ホームページ内にある「こうち出合いのきっかけ応援サイト」をご覧ください。

▶ URL

<http://www.pref.kochi.lg.jp/~deaiouen/supporter/index.html>

▶ 問い合わせ

高知県地域福祉部 少子対策課

☎ 823-9717